

研究 主題	自分の考えをよりよく伝えられる授業を目指して 一言語活動の指導の工夫（練り合い）を通してー
----------	--

第2学年国語科学習指導案

指導月日 令和2年10月5日
 所属校名 亶理町立亶理中学校
 氏名 佐藤 裕一

1 単元名「説得力のある提案をしよう プレゼンテーション」（東京書籍 新編新しい国語2）

2 単元の目標

- (1) 意見と根拠，具体と抽象など情報と情報の関係について理解することができる。
 [知識及び技能] (2) ア
- (2) 資料や機器を用いるなどして，自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。
 [思考力，判断力，表現力等] A (1) ウ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を生活に役立て，我が国の文化を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。
 「学びに向かう力，人間性等」

3 単元観

本単元は，中学校学習指導要領（平成29年度告示）の第2学年〔思考力，判断力，表現力等〕のA (1)「ウ 資料や機器を用いるなどして，自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。」を受けて設定している。

本単元までに，小学校では，第5学年及び第6学年〔思考力，判断力，表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」の言語活動例に，提案を話したり聞いたりすることが位置付けられており，中学校1学年の「具体例を挙げて伝えよう」には，順序立てて話を組み立てる学習を行っている。

本単元では，プレゼンテーションに用いる発表資料の作成や発表を行う中での質問や助言を通して，構成の工夫だけでなく，資料を用いて自分の考えが分かりやすく伝わるような表現の工夫ができるようになることを目標としている。この目標に向かって，自分の伝えたいことを聞き手にとって分かりやすく伝えるために，どのような資料を用い，どのように示すのかを考えていく。また，状況や必要に応じて提案するものの良さを明確な形や内容で示したり，いくつかの具体的な良さをまとめたりすることで，第2学年〔知識及び技能〕の(2)「ア 意見と根拠，具体と抽象など情報と情報の関係について理解すること。」を身に付けることができるよう指導していく。

4 生徒の実態〔第2学年5組33名〕

- (1) 標準学力検査の結果（令和2年7月2日実施）から

標準学力検査の結果では，「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均得点率が69.6であるのに対し，学級平均得点率は63.3である。領域を3つに分けた小領域ごとに見ると，「構成を工夫して話すこと」と「話し手の意図を考えて聞くこと」の2つで全国平均得点率をやや上回っている。一方，「話題を捉えて話し合うこと」では全国平均得点率より20.8も低い。

「話題を捉えて話し合うこと」について，更に詳しく見ると，解答していた生徒はほぼ正答だったが，無答の生徒がおおよそ3分の1おり，二極化していることが分かった。普段の話し合い活動では，話題を捉えられなかったり話がそれたりする様子はほとんど見られないが，標準学力検査の結果を踏まえ，言語活動の際の練り合いの場面で，練り合う内容を焦点化して質問や助言をさせる必要があると考えた。

【領域及び小領域別得点率（％）】 ※一部抜粋

領域・小領域	学級平均得点率	全国平均得点率
話すこと・聞くこと	63.3	69.6
構成を工夫して話すこと	79.3	75.3
話し手の意図を考えて聞くこと	69.0	67.8
話題を捉えて話し合うこと	46.2	67.0

(2) これまでの授業の取組から

資料を用いた発表は、1学年の「ニュースの見方を考えよう」において、伝えたい内容にふさわしい写真をグループで選んで発表した。また、「話し合いで理解を深めよう」において、KJ法で付箋を貼った模造紙を聞き手に見せながら発表する活動をしている。そのため、資料を見せながら発表することに戸惑いはないと考えられる。しかし、どちらもグループでの発表だったため、一人での活動が難しい生徒も出てくることが予想される。

1学年の「根拠を明確にして書こう」では、根拠を具体的に考える際に、「具体」がどのような概念かを説明した程度にとどまっている。一つ前の「読むこと」の単元「説得力を高める」で学習した「哲学的思考のすすめ」では、自分の考えを述べる際に適切な具体例を挙げられた生徒が多く見られた。しかし、具体例から共通点を見付けてまとめることまではできていない生徒や、共通点を見付けられたとしても時間が掛かった生徒が多く見られたことから、「抽象」がどのような概念か理解できていないことがうかがえた。

5 指導観

本単元では、中学校国語科の目標の(1)(2)を受け、生徒にとって身近な社会生活の場面を設定するため、提案内容を「亘理町に来てもらおう」とする。

提案対象は福島県喜多方市の農家の方々とした。今年度は感染症対策のために実施されなかったが、例年であれば1年生の行事でお世話になった喜多方市の農家の方々を文化祭に招待し、亘理町を観光していただく時期であった。提案する対象を具体的にすることで、聞き手を意識した提案内容となっていくとともに、言葉遣いにも気を配るようになっていくと考えた。伝えようという意欲の高まりも期待できる。

また、学習の見通しを持たせる際に、教師の地元を例に考えた「角田市に来てもらおう」の発表資料の作成過程も加えることとした。実際の角田市の資料を複数見せることで、それぞれの資料の効果に気付かせる。「具体」は例示の際に、「抽象」は共通する要素を抽出してまとめる際に使うこと、必要に応じて使い分けられることを理解させる。資料の内容と用い方について、聞き手が感じたことを練り合う材料とし、資料が聞き手に与える効果を考えさせた上で表現を工夫させたい。

発表資料の作成・発表は一人一人で行わせる。練り合いの場面でのグループ活動については3人程度の編成とし、特別なグルーピングはしない。また、感染症対策として生徒同士の距離を詰めさせないよう留意する。

6 研究主題との関連

(1) 練り合いを機能させるための工夫

生徒が活発に活動でき、練り合う内容がそれないようにするために、教師が発表資料や発表のモデルを示し、以下3点により練り合いの土台を作る。

- ・ グラフや写真など、それぞれの資料の効果について理解させる。
- ・ 練り合う内容が資料の内容や用い方であることを明示する。
- ・ どのような意図で資料の内容や用い方を決めたのか、話し手のプレゼンテーションを聞いてどのようなことを感じたのか、自分の意見を持たせる。

(2) よりよく伝えられることを実感できる工夫

自分が考えた資料の内容や用い方の表現の工夫によって、聞き手がどのように受け取ったかをグループ内で伝え合う機会を設定する。その後、聞き手の受け取り方を基に再検討した発表資料の内容や用い方でプレゼンテーションを行い、聞き手の受け取り方の変化を確認させる。これにより、聞き手が分かりやすいと感じたときはどのようなとき、どのような工夫だったか、よりよく伝えるためにどのようなことが必要だったのかを実感できると考える。

7 単元の指導と評価の計画（6時間扱い 本時4／6）

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①意見と根拠，具体と抽象など情報と情報の関係について理解している。（(2)ア）	①「話すこと・聞くこと」において，資料を用いて，自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。（A(1)ウ）	①粘り強く，表現を工夫し，今までの学習を生かして，自分の提案を分かりやすく伝えようとしている。

(2) 単元計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○教師が考えた発表資料の作成過程を聞き，学習の見通しを持つ。 ○亘理町に来てもらうための提案内容を決める。 ○亘理町の良さを考えたり，複数の亘理町の良さから亘理町の良さをまとめたりして，伝えたいことを明確にする。	・具体は例示の際に用い，抽象は共通する要素を抽出してまとめる際に用いることを理解させる。 ・提案する対象を意識させる。 ・プレゼンテーションの条件を明示する。 ・発表時間が2分で収まるよう，紹介できる「町の良さ」は2つまでに絞らせる。 ・発表内容がそれないように確認し，焦点化した練り合いになることを意図し，亘理町の良さについて必ず伝えたいことをワークシートに記入させる。	[知識・技能] ① ワークシート ・ここでは，紹介する町の良さを決め，町の良さについて具体的に挙げたり，抽象的に捉えたりしているかを確認する。
2・3	○教師のプレゼンテーションを基に，資料の効果を確認する。 ○プレゼンテーションの大まかな流れと，伝えたいことに対して複数の資料の案を考える。 ○資料をどのように用いるかを考える。 ○発表資料を作成する。 ○発表の練習をする。	・教師が複数の種類の資料を用いたり，既習事項である図表の効果について振り返らせたりして，それぞれの資料の効果に気付かせた上で，発表資料を考えさせる。 ・複数の発表資料の案を考え，練り合う際の論点とさせる。 ・プレゼンテーションは2分に収めさせる。 ・練習の様子を見取りながら，内容に合うような資料の種類や用い方，伝えたい情報の優先順位や簡潔な言葉への言い換えを考えさせる。	[思考・判断・表現] ① 観察・ワークシート・資料 ・ここでは，自分の伝えたいことが聞き手に分かりやすく伝わるように，発表資料の内容や用い方の工夫をしているかを確認する。

4 (本時) ・5	○グループ内で各自発表を行う。 ○資料の内容と用い方について、聞き手の感じたことを基に、グループで一人一人のプレゼンテーションについて練り合う。 ○練り合った内容を基に、個人で再検討してプレゼンテーションを完成させる。 ○発表の練習をする。	・聞き手に、喜多方市の農家の方々であるという設定を改めて確認してから発表させる。 ・聞き手には、表現の工夫として資料の内容と用い方について感じたことを書かせる。 ・他者の発表を聞き、話し手の考えが正確に伝わり、聞き手の理解を深めるためのものになるように、資料の内容と用い方について練り合う。 ・練り合いの中で出た聞き手の意見を踏まえ、聞き手への伝わり方を意識した表現の工夫を改めて考えさせる。	[思考・判断・表現] ① 観察・ワークシート ・ここでは、他者の考えを踏まえた上で、自分の考えがより分かりやすく伝わるように発表資料の内容や用い方を工夫しているかを確認する。
6	○再検討したプレゼンテーションを前回と同じグループで発表し合う。 ○伝えたいことに対する資料の内容と用い方について、聞き手がどのように受け取ったかを前回と同じグループで伝え合う。 ○学習を振り返り、伝えたいことを伝えるためには、どのような表現の工夫が効果的だったかを確認する。	・伝えたいことを伝えるためには、どのような表現の工夫が効果的だったかを振り返らせる。	[主体的に学習に取り組む態度] ① 観察・ワークシート ・ここでは、自分の考えを分かりやすく伝える表現の変化について気付いたことを書き、振り返ろうとしているかを確認する。

8 本時の計画

(1) 目標

資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。

[思考力、判断力、表現力等]

(2) 本時の指導に当たって

プレゼンテーションの資料作成と発表を通して、資料の内容と用い方について考えさせ、資料を用いて自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫していく。

聞き手には発表者の発表資料の内容と用い方について感じたことを書かせ、発表者には自分のプレゼンテーションが聞き手にどのように伝わったのかを確認させることで、改善策を考えられることにつながることを考える。また、他者の発表を聞いて感じたことを書く過程において、発表資料の内容と用い方について良い点や良くない点に気付いていくことができ、自分のプレゼンテーションを再検討し完成させる際に役立てられる。

練り合いの際には、発表者がどのようなことを伝えたいかを最初に述べることで他者から自分の意図を踏まえた質問や助言を受けられること、発表者の意図が伝わらなかった部分について率直に伝え合うことが互いの成長につながることを理解させる。また、質問や助言の仕方に配慮させ、どうしたら話し手の意図した効果が得られるようになるかを考えて、提案する形で意見を出させたい。教師も生徒とともに原因を考え、課題解決の方向性を見付けさせたい。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ・予想される生徒の反応	形態	○指導上の留意点 ●教師の支援	評価の観点 (評価方法)
導入 5分	1 本時の課題を確認する。 資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。 2 本時の学習の流れを確認する。	一斉	○本時の課題や学習の流れを黒板に貼ることで、活動時間を確保するよう留意する。 ○ここでの「表現を工夫する」とは発表資料の内容や用い方を工夫することであることを確認する。	
展開 35分	3 プレゼンテーションをグループ内で一人ずつ行い、資料の内容と用い方について、聞き手が感じたことを基に、資料の内容と用い方を順に練り合う。 ①発表を始めます。（2分/1人） ②聞き手は、資料の内容と用い方について感じたことをワークシートに書きましょう。（2分/1人） ・短く箇条書きされていたので、一見して分かりやすい。【内容】 ・説明の後に資料を出すより、資料を見せながら説明した方が分かりやすいと思う。【用い方】 ③発表者は、資料で伝えなかったことと伝えるために工夫した部分を伝えましょう。 ・「はらこめし」の鮮やかな色を伝えたくて写真で見せることにした。【内容】 ・注目してほしい部分だったから資料を指差しながら発表した。【用い方】 ④聞き手は発表者の意図を踏まえて質問や助言を行いましょう。 ・海は誰でも想像しやすいから、「はらこめし」を写真で見せたら良いと思う。【内容】 ・資料を左右に振るのは良いと思うけど、もう少しゆっくり動かした方が良いと思う。【用い方】 ⑤グループ内で出された表現の工夫を比較・検討し、よりよい資料の内容や用い方を考えましょう。 ・ホテルの外観より部屋や温泉の様子、	班	○聞き手は喜多方市の農家の方々であるという設定を改めて確認する。 ○感じたことを、質問や助言の形で書くよう指導する。 ●感じたことを書き出せずにいる生徒には、印象に残ったところや疑問に感じたところを率直に書くよう声掛けを行う。 ○③～⑤の活動を連続して行わせる。③で発表者の意図を簡潔に伝えさせ、④⑤の活動と合わせて1人当たり5分程度の時間を設定する。 ●発言が乏しいグループがあれば教師もそのグループに参加し、発言を促す。 ●有効な解決策を提案している生徒がいたら、全体への助言として紹介できるよう留意しながら机間指導を行う。 ●適切な資料や表現を選べていない生徒には、どのような意図で資料や	[思考・判断・表現] ① ・自分の考えと他者の考えを踏まえた上で、自分の考えが分かりやすく伝わるように発表資料の内容や用い方の工夫している（観察・ワークシート）

	出される料理を見せた方が、泊まりたいと思わせる。【内容】 ・問いかけをした後に、答え発表のように資料を見せれば聞き手を引き付けられるだろう。【用い方】		表現を用いたのかを本人に確認する。その上で、本人の意図と聞き手の受け取り方の違いを教師が伝える。	
終 結 10 分	4 本時の振り返りをする。 練り合いを踏まえて、表現をどのように工夫することにしたか。ワークシートに書きましょう。 ・一見して分かってもらえるように、文字数を減らして字を大きくすることにした。【内容】 ・説明する前に写真を見せることにした。そうした方が、実際のものをイメージしながら聞いてもらえたと考えた。【用い方】 5 次時の予告を聞く。	一斉	○表現を工夫した理由を説明させる形で書かせるよう指導する。	

(4) 本時の評価

評価の観点	具体的評価規準（B）	十分満足できる（A）	努力を要する生徒への具体的な支援（C）
思考・判断・表現	資料を用いて、自分の意図が分かりやすく伝わるように表現を工夫している。	伝えたいことにふさわしい資料を選び、自分の考えが分かりやすく伝わるように資料の内容や用い方を工夫している。	どのような意図で資料や表現を用いたのかを本人に確認する。その上で、本人の意図と聞き手の受け取り方の違いを教師が伝える。

(5) 準備物

- ① 生徒 教科書・ワークシート・赤ペン
- ② 教師 教科書・板書内容を書いた掲示物

(6) 板書計画

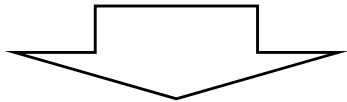
◎資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。 1 活動の流れ 発表（4分×3） ①プレゼンテーションを行う（2分） ②聞き手はワークシートに感じたことを書く（2分） 2 練り合う（5分×3） ①資料の内容や用い方の意図を伝える ・資料で伝えなかったこと ・資料の示し方 ②よりよい資料の内容や用い方をグループで考える 3 振り返り 練り合いを踏まえて、表現の工夫をワークシートに書く

基本条件 ① 発表は2分以内

② 紹介できるものは2つまで

③ 使う資料は2つまで（写真を使った資料は1つまで）

アピールポイント	対象	提案
	農泊体験でお世話になった喜多方市の皆さん	亘理町に来てもらう



話の構成・資料メモ	必ず伝えたいこと

☆プレゼンテーションを聞いて、どう感じたかを書きましょう。

発表者	感じたこと（○良かった点 ●改善点・提案）
（例） 一郎	○違いを比較するのに、棒グラフを使っていたのは良かったと思います。 ●棒の色は2色にすると見やすいと思います。

☆聞き手からの提案で、「それは良い」と感じたものを書いておきましょう。

☆今日の授業を振り返って、表現の工夫について気付いたことや自分のプレゼンテーションをどのように工夫しようと考えたかを書きましょう。